テーマ　　望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方
～自治的活動を位置付けた活動の実践を通して～

日立市立成沢小学校

1　はじめに

本校は、教育目標において、特別活動による自主性・自立性、豊かな心の育成を目指している。これを踏まえて、子どもの自律と社会の一員としての自覚を促す指導を充実させ、児童による自治的活動を位置付けた活動を実践している。

2　実践内容

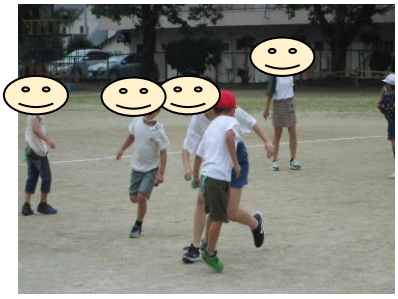
(1)　１年生を迎える会の企画・運営

運営委員会では、新１年生の入学を祝う「１年生を迎える会」を行っている。１年生が安心して学校生活を送れるように、小学校の行事や優しい上級生がいることなどが伝わるように企画することができた。劇を取り入れた学校紹介や成沢小学校クイズなど、１年生は楽しく学校のことを学ぶことができた。また、在校生も学校のルールなどを再確認するなど、成沢小学校への所属感を高めることができた。２年生は自分で育てたあさがおの種をプレゼントするなど、全校で協力して実践する活動を工夫することができた。

(2)　マナーアップ週間

運営委員会では、マナーアップ週間として「廊下の歩行」をテーマとして活動した。運営委員会の話合い活動では、トイレの使い方やあいさつ、靴箱の整頓など日常生活を見直した。その結果、自他のけがにも関わる廊下の歩行を強化することになった。事前にポスターを作成し廊下に掲示したり、よくできている児童について放送で紹介したりした。ポスターを見て友達に声を掛けたり、放送で紹介してもらえるようにしたりした。また、一人一人が気を付けて行動したり、友達同士で生活をよくしたりしようとする姿が見られた。

(3)　なるさわ大皆遊



本校では、６年生と１年生、５年生と２年生、４年生と３年生で兄弟学級をつくり、年間６回、なるさわタイム（ロング昼休み）の時間に一緒に遊んでいる。遊ぶ内容は、年長学級が中心になって考え、上級生が下級生と一緒に遊んでも楽しく安全にできる遊びを計画している。大皆遊では、タイヤ跳びじゃんけんやしっぽとり鬼ごっこなど、異学年交流だからこそできる工夫を凝らした遊びを行った。下級生を労り、手助けしながら楽しく活動する上級生の姿や上級生と遊べることに目を輝かせる下級生の姿が見られた。交流後も休み時間に一緒に遊んだり、あいさつや会話を交わしたりする姿も見られ、交流が深まっている。

3　成果と課題

○　「１年生を迎える会」や「なるさわ大皆遊」での話合い活動を通して、下級生を思いやる姿が見られた。また、各学級では、様々な意見を認め合い、意見が違ったときは折り合いを付けて意見をまとめることができるようになった。

○　高学年においては、委員会活動や学級会で話合いをすることで、普段リーダシップを発揮できない児童も「下級生のためなら」と目的を明確にし、積極的に話合い活動に参加していた。また、下学年との関わりを通して、言葉遣いや態度など、多様な社会の中で一人一人の力を発揮している様子も見られた。

○　マナーアップ週間を設けたことで、自分の生活を見直すきっかけとなった。また、児童相互が集団生活で必要なことを再確認して声を掛け合ったり、褒め合ったりして成沢小学校の一員であることを自覚して行動することができた。

●　自己肯定感や自己有用感を高めるために、互いのよさや努力を認め合う場面が増えたが、QU アンケート等を見ると、自己肯定感や自己有用感が低い児童がいるので、児童一人一人のよさや可能性などを積極的に認める評価の工夫が必要である。

●　感染症対策や行事等の見直しにより、これまでより活動内容を縮小化したり削減したりしたことで、特別活動の目的に即しているか教員間で再度検討していく必要がある。